

YAU TEN

2022/5/20 (金) - 27 (金)
YAU STUDIO、有楽町各所

EXHIBITION

A1, A22, A23

築山礁太 Shota Tsukiyama

《Viewpoint》A22

《Viewpoint in the window》A23

《Viewpoint study》A1

フィールドと視線のパースペクティブを元に「見る」という行為を考えると、視覚にも身体性がある。ツイスターゲームのような形で複数のイメージ断面を使い、大きなイメージを捉えているように感じる。また、パースペクティブを使うという事はイメージの正面を作ることであるとも言える。私たちはそれぞれの視線のパスを持っていて、フィールドのパスと調整しながら個人々人によって正面を作り、「見る」という行為を行なっているのではないかと。

《Viewpoint in the window》

出演協力：河原孝典、弓場誠、藤江龍之介、松岡拓海

A2

ARCHI HATCH/YUTA TOKUNAGA

《中銀カプセルタワーバーチャルツアー》

Nakagin Capsule Tower Virtual Tour

1972年に竣工した黒川紀章の代表作品である「中銀カプセルタワービル」が、2022年4月、建設から50年を経て、ついに解体されることとなった。東京の中心に生まれた類を見ないこの建築は多くの人々を魅了し、そして愛された建築となったのはいうまでもない。今回の展示はその中銀カプセルタワーの住人でもあった ARCHI HATCH の徳永が、カプセルタワーの最後の姿を記録したものであり、もう立ち入ることができないカプセルタワーの全貌を体験できる3Dバーチャルツアーを世界で初めて、東京の中心である有楽町で展示をする。

協力：中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト / imgee 株式会社 [imgee Inc.] / 今村圭佑 / 中村祐太郎

A4

東京工芸大学芸術学部写真学科 川島研究室 (フォトメディア)

Tokyo Polytechnic University, Faculty of Arts, Department of Photography, Photo Media Lab.

《Research Room》

写真学科の有志学生12名による、有楽町でのリサーチプロセスと、3月のOPEN STUDIOで発表した作品の一部を集めた部屋。学生達の約3ヶ月間におよぶ活動のプロセスを見ることが出来る。

-

A3

東京工芸大学芸術学部写真学科

狩野潤哉 / 高森千瑛

Junya Kano / Chiaki Takamori

《界層》void

大丸有エリアの地下道を歩くと、急に天井が下がる場所がある。同じ位置の地上を確認してみても、真っ平らな地面が敷かれているだけである。本作品では、狭間にある立ち入ることのできない空洞を想像し、可視化することを試みる。

-

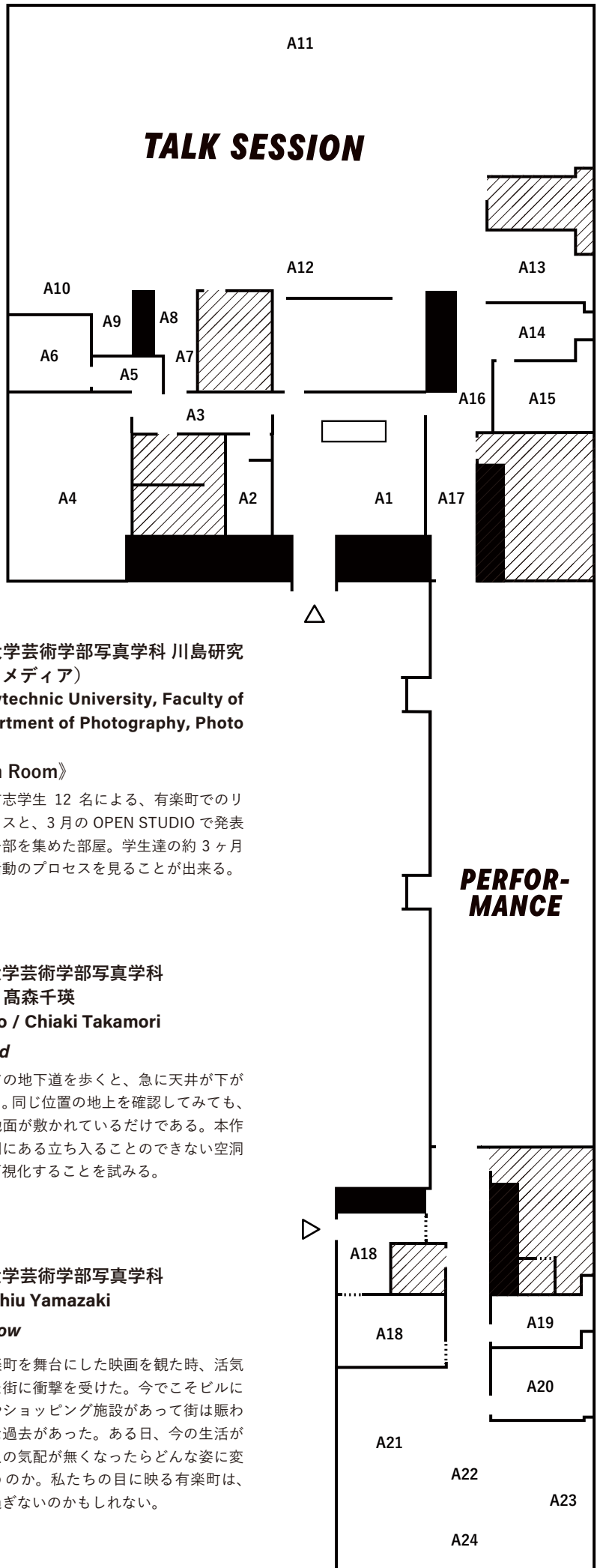
A5

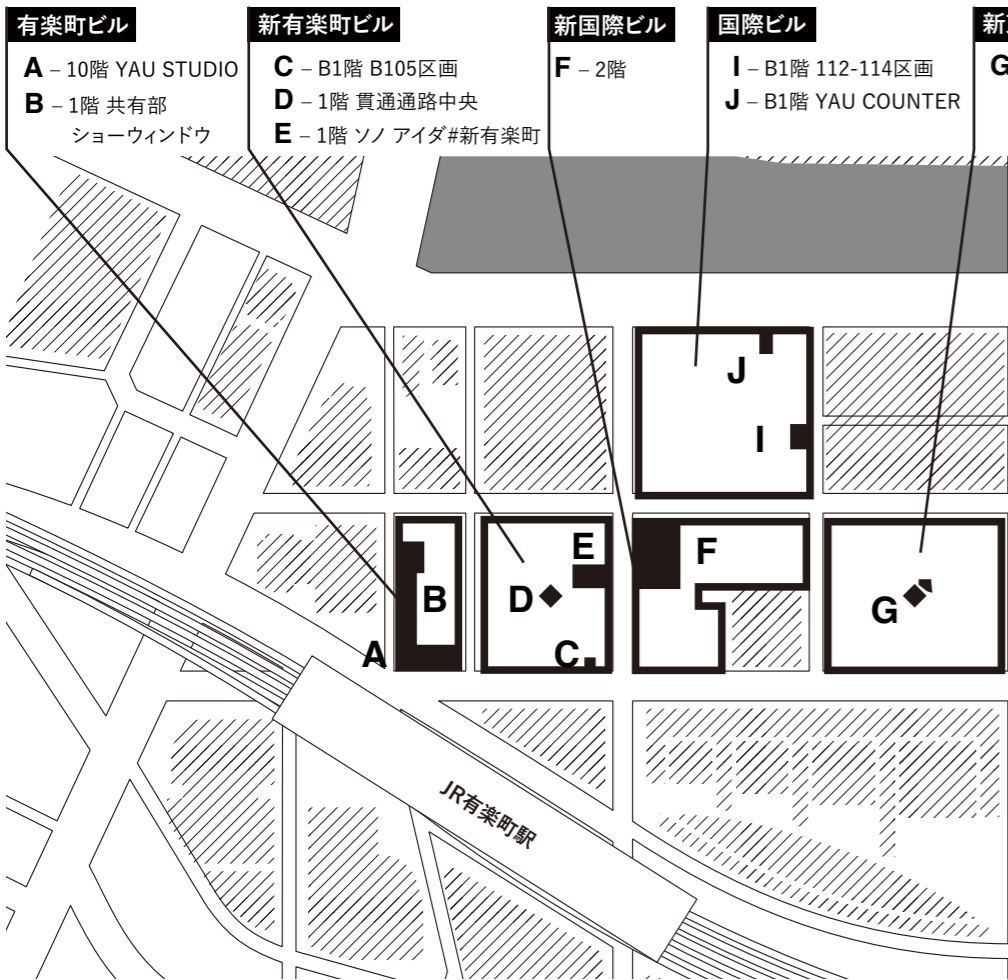
東京工芸大学芸術学部写真学科

山崎心宇 Shiu Yamazaki

《影》shadow

戦時中の有楽町を舞台にした映画を観た時、活気が無くなった街に衝撃を受けた。今でこそビルにはオフィスやショッピング施設があって街は賑わうが、惨烈な過去があった。ある日、今の生活が無くなり、人の気配が無くなったらどんな姿になってしまうのか。私たちの目に映る有楽町は、ある一面に過ぎないのかもしれない。





B
山本華 Hana Yamamoto

《The Expanded Narita #3 Yurakucho Bldg.》

羽田空港の新飛行ルートが施行されて以来、都心で飛行機が真上を通るとき、私たちは隣にいる名前を知らない他者と共に空を見上げる。それはブルーインパルスのような、飛行機がもたらす共同体意識や空の神聖性といった体験が日常的に発生しているようだった。皇居の横に位置する有楽町では飛行機の音は聞こえない。この作品は、「飛行機は皇居の上空を飛行することができない」という偽の言説と、この言説が持つ妙な信憑性についての考察であり、飛行機が飛ばない場所についての気づきである。



C
GC Magazine
荻原陸 Riku Ebara
《有楽塔》 *Yuraku-tower*

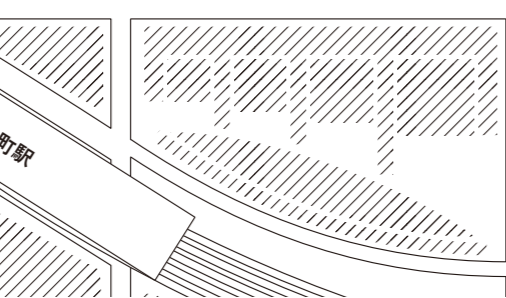
1970年、大阪万博と同時期に開業した理容室にシンボルモチーフとして塔を作り上げる。「有楽塔」という文字の如く、楽しさがあって欲しいと願ひ塔を積む。雑誌にプリントされた写真を自らのルールで乗っ取り、手で折り曲げることで笑顔を作り出す。

有楽町ビル
A - 10階 YAU STUDIO
B - 1階 共有部
ショーウィンドウ

新有楽町ビル
C - B1階 B105区画
D - 1階 貫通通路中央
E - 1階 ソノ アイダ#新有楽町

新国際ビル
F - 2階

国際ビル
I - B1階 112-114区画
J - B1階 YAU COUNTER



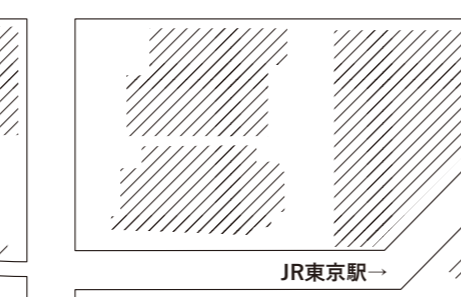
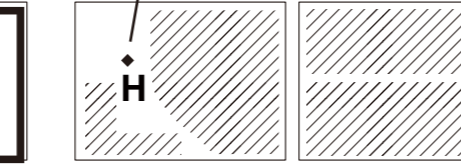
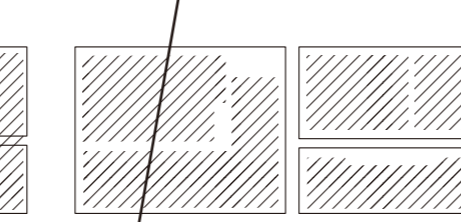
C
GC Magazine
伊藤颯 Hayate Ito
《すかるべちャ〜》 *Skullpecha〜*

60年代に建設された有楽町のビルは、当時の最新技術を用いて角が丸みを帯びて設計され、壁や床には化石が眠っている大理石が使われている。そこから着想を得た伊藤は骨型のクッション『すかるべちャ〜』を制作。地下に眠ったままの理容室跡地は化石の発掘現場を想起させるが、天井に浮かぶ骨と地面に置かれたツルハシは、実際の天地と矛盾しており、自室で制作していたこれまでと、有楽町で制作することの自身における立場の逆転を表している。この場合、理容室跡地は鑑賞者には見えない作者の輪郭を掘り起こす発掘現場ともなるだろう。

C
GC Magazine
鈴木冬生 Toi Suzuki
《cobweb》

このエリアでは計画的に配置された植生が自然とされている。一方で、ビルの影や路地裏に生息する蜘蛛や地衣類は、人為的な開発に呼応し、生態系を変化させながら密かに生き続けてきた。これらは普段鑑賞や体験の対象となることはない。だがこの営みは、都市における一つの自然と呼べるものではないだろうか。本作では一見、無益と思われる自然物やその現象をインスタレーションのモチーフに、閉ざされていた理容室跡の最奥から増大させていく。

新東京ビル
G - 1階 貫通通路中央、115区画



C
GC Magazine
星嶺珠 Ryoju Hoshi
《SKRV.(SL)》

ゴミのポイ捨てや、落書きなどもちろんのこと、区画整備が徹底的にされるだけでなく、めまぐるしく姿を変えていくこの街において、本プロジェクトは一瞬の出来事に過ぎない。その性質が有楽町という街に不釣り合いにも見えるスローアップと重なっていることに気がついた。有楽町のビルから着想を得、建築に使われるモノをモチーフとし、制作をした。

C
GC Magazine
金田剛 Tsuyoshi Kaneda
《ガラスの船》 *The Glass Ship*

有楽町から程近い東京国際フォーラムは、巨大なガラスの船をモチーフに建築されている。地上を水底、そこから約60m上空にあるガラスの船までを水面だと仮定し、水に満たされた都市空間を舞台に作品を制作した。私たちが普段から目にする都市の中で、人工的に植え付けられた草木は水中を揺らぐ水草に変わり、その周囲を魚が泳ぐ。本作は、ネイチャーアクアリウムの観点から都市空間における自然を考察する一つの試みである。

C
GC Magazine
高田有輝 Yuki Takada
《ダウンロード》 *Download*

ゴジラをはじめ数多くの特撮怪獣が有楽町の土を「踏んで」いる。その影響で有楽町の人口は18人に落ち込んだと仮定してみる。街は新陳代謝を繰り返す一方、昔の面影が幽霊のように彷徨っている。しかし、有楽町ほど死の匂いがしない街は珍しい。この街に家族はいるのだろうか？有楽町で見聞きした風景、語り、事物をつなぎ合わせ、虚構（漫画）を制作した。

C
GC Magazine
小林菜奈子 Nanako Kobayashi
《風解》 *efflorescence*

日本語において「風」という言葉はさまざまな表現で用いられる。「そよ風」「台風」というように物理的な自然現象を指す場合もあれば、「風の吹きまわし」「風向きが悪い」など、世の中の時勢やその場の雰囲気、人の気持ちなどを表現する際に使われることも多い。しかし、どちらも普段の生活においてこれを視覚化することは無い。有楽町のようなビル街に発生するビル風や取り壊し予定の建物、そこから連想される「風化」のイメージとは何か。本作は、本来「風」を感じる五感以外を用いて、あらゆる「風」を再認識する。

C
GC Magazine
Lark Ring
《Decree》

社会的・空間的な編成に作品の焦点を置いている。規範的な思考や世界観に対する葛藤をきっかけに、既存の構造や普遍的と思われる真実に疑問を投げかけ、検証するところから制作を行う。探求心の核となるのは言語への興味であり、自身が持つ世界の見方や考え方、関わり方を構造化したものである。インスタレーションにおいては、立場、言説、社会の構造の中にある一過性を強調し、作者と観客の立場を混ぜ合わせることで、現代への批判的な関わり方を求めている。

D, G ※Aにも関連展示
小山泰介 Taisuke Koyama
《Traces》

有楽町のビル屋上にはビオトープがある。そこは皇居の森の延長として、鳥や虫たちが行き交い、腐敗した植物や有機物からヘドロや土が生まれている。自然の現象は都市環境にも等しく影響し、代謝や循環の力学は常に存在している。本作では、新有楽町ビルと新国際ビルの屋上で採集したヘドロや土、落ち葉などを YAU STUDIO に持ち込み、サイアノタイプと呼ばれる技法でイメージに定着。有楽町ビルを照らす太陽光によって、近代の都市空間において潜在化・不可視化されてきた土の存在や、土を生み出す植物の痕跡を可視化した。協力：小岩井農牧株式会社、株式会社富士植木

E
ソノ アイダ # 新有楽町

「ソノ アイダ # 新有楽町」は、三菱地所の新有楽町ビル 1階の空き店舗区画を空間メディアとして活用するアートプロジェクトです。その中の企画「ARTISTS STUDIO」では、アーティストが自分の制作環境を移設し、約1ヶ月半の期間作品を制作しながらアーティストの営みを展示、作品販売も行います。スタジオプログラムのアーティストは期間ごとに入れ替り、常にアーティストのいる風景を提供します。加えて企画展覧会や現代美術への関わりを実践しながら学ぶ「OUT SCHOOL」や不定期開催予定のワークショップ等も並走しながら、アートに関わる様々な人が集まる新たなアートコミュニティの形を提案します。

期間：～2023年
営業時間：13:00～20:00
URL：www.sonoaida.jp
ARTISTS STUDIO 第4期 藤崎了一 / Hogalee
(2022/5/10～6/26)

<p>ソノ アイダ #SHOWCASE</p> <p>期間：6/1(水)～次の店舗の営業開始まで 上記の展示会場G・Iはアートプロジェクト「ソノ アイダ # SHOW CASE」の展示となります。</p> <p>www.sonoaida.jp/showcase</p>	
---	--

H
石毛健太 Kenta Ishige
《If this tree lives another 200 years, this property value, this hole, this word.》

街路樹という存在についての疑問から端を発し、この作品を制作・発表することになった。制作やリサーチを進めていく中で、公開空地の大ケヤキは資産価値を算出され、屋上ビオトープの柳の挿し木からは根が生え、虫が沸いた。そういった制作過程や発表の機会を目の前の（あるいはこの先の）都市における景観の成り立ちや生命のあり方について考える嚆矢としたい。協力：一般社団法人グリーンインフラ総研

I
梅沢英樹 + 佐藤浩一 Hideki Umezawa + Koichi Sato
《緩慢な尺度において》 *In Slow Scale*

大丸有エリアのエネルギー供給を支える地下プラントと、東京と距離的な隔たりがありながらも様々な関係を持つ場所；放射性廃棄物の地層処分研究施設、放射性物質が沈着した湖、地熱地帯、氷河地形と風力発電所などへのフィールドワークを基にした作品。普段は見えにくい都市を支えるインフラの様子やエネルギーをめぐる複数の場所の関係性が、都市の公共空間の中に配置されることで、私たちの都市生活がどのようにして人間的な尺度を超えた時間と接続されているのかを考察する。協賛：エコッツェリア協会
撮影協力：丸の内熱供給株式会社、幌延深地層研究センター
撮影補助：芝田日菜
展示照明：伊藤啓太
テクニカルサポート：上田真平

J

若手アーティストが直面するさまざまな困りごとについて考える相談員のネットワーク SNZ（シノバス）による「SOUDAN」では、引き続きさまざまな専門家をお呼びして、相談所を継続開設しています。YAU がスタートして以降「専門家の話をきく」「専門家に話を聞いてもらう」というだけではなく、来場者同士でも会話が生まれたり、技術の共有がおこなわれたり、あるいは専門家が逆に相する側になったりとさまざまで、それらがひとつの空間の中で同時に起きていることもこの場の魅力です。

日程：5/20（金）～27（金）
時間：11:00～18:00
会場：YAU COUNTER
参加者（相談員）：山川陸、長谷川新、森純平、うらあやか、中島りか、田村かのこ、宮路雅行、西原珉、猫のやりかた

PERFORMANCE

F
『大手町・丸の内・有楽町で働く人たちとパフォーマンス？ダンス？演劇？をつくるためのワークショップ』成果発表公演
『今ここから、あなたのことが見える／見えない』

演出・構成：倉田 翠
日時:5/22(日)14:00開演/17:00開演(上演時間:約70分予定)
会場：新国際ビル2階
料金：一般1,000円（税込）、18歳以下無料（※要予約/公演当日要証明）
出演：ワークショップ参加者12名、倉田翠

※以下は YAU STUDIO にて実施

チーム・チープロ 『皇居ランニングマン』
振付・構成：チーム・チープロ（松本奈々子、西本健吾）
日時：5/21（土）、22（日）13:00開演/16:00開演（上演時間：約30分）
会場：YAU STUDIO 内 Y-base1
料金：500円（税込）、18歳以下無料（※要予約/公演当日要証明）
出演：松本奈々子

シラカン 『くじら』
作・演出：西岳
日時：5/26（木）、27（金）12:30開演/18:00開演（上演時間：約40分）
会場：YAU STUDIO 内 Y-base1
料金：1,000円（税込）
出演：岩田里都、櫻井碧夏、干川耕平、村上さくら

TALK SESSION

日本のビジネスの中心地「有楽町・丸の内」でアーティストが活動したこの4か月。YAU 参加のアーティスト・建築家・デザイナー・編集者に加え、企業人としてアーティストと協働する方々をゲストにお招きするクロスジャンルのトークセッションです。

5/20 (金)

13:30-

「リガーベースフラッグプロジェクト | エリアマネジメントとアーティストのコラボレーション」

石塚俊 (デザイナー)

村田啓 (写真家)

A NEW SCALE / 深井佐和子+内田友紀 (都市研究コレクティブ)

大谷典之 (NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会 事務局長)

長谷川春奈 (NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会)

小山泰介 (写真家)

14:30-

「東京感動線～山手線×アートの取り組み～」

古田恵美 (JR 東日本)

MELTed MEADOW (クリエイティブ・ディレクター)

深井厚志 (編集者)

15:30-

「YAU STUDIO の日常から生まれたもの - 異分野の交流」

松井周 (劇作家 / 演出家 / 俳優)

綿貫美紀 (「松井周の標本室」運営)

GC Magazine (アーティストコレクティブ)

森純平 (建築家)

16:30-

「都市の中の自然～土とビオトープ・有楽町の屋上から～」

石毛健太 (美術家)

小山泰介 (写真家)

赤尾正俊 (小岩井農牧 / 樹木医)

吉田幸菜 (小岩井農牧)

長谷川隆三 (フロントヤード)

17:30-

「日比谷 OKUROIJI ～高架下からはじまるアートの輪～」

菅野昭彦 (JR 東日本都市開発)

深井厚志 (編集者)

西本龍生 (一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 事務局長代理)

18:30-

「リアルとデジタルの新たなアート・プラットフォームとは」

松本香澄 (住友商事 / The Chain Museum 担当)

中森葉月 (三菱地所)

20:00-

「Playing Tokyo special talk City & Arts & City | YAU #2」

齋藤精一 (パノラマティクス主宰)

小山泰介 (写真家)

藤元明 (アーティスト)

山元夕梨恵 (三菱地所)

※生配信あり

<https://playing.super-flying.tokyo/>



5/21 (土)

13:00-

「公共空間に展開するアートの可能性」

石毛健太 (美術家)

三野新 (写真家 / 舞台作家)

山本華 (写真家)

築山礁太 (写真家)

小山泰介 (写真家)

長谷川隆三 (フロントヤード)

14:00-

「アーティストがいることによって生まれる、ビジネスとの学びあい」

臼井隆志 (アートエデュケーション)

森純平 (建築家)

15:00-

「なぜアーティストと企業がコラボレーションしたのか？」

柴田尚希 (三菱重工 先進デザインセンター長)

稲垣匠人 (daisy*)

四方幸子 (キュレーティング / 批評)

深井厚志 (編集者)

16:00-

「パブリックスペースの現在 - 都市と建築編」

西澤徹夫 (建築家)

榊原充大 (株式会社都市機能計画室)

森純平 (建築家)

17:30-

「音楽を使った都市空間デザインの可能性」 * 有楽町夜大学関連企画

川口真沙美 (GOOD DESIGN Marunouchi/JDP)

三上僚太 (Vegetable Record)

林翔太郎 (Vegetable Record)

中森葉月 (三菱地所)

5/23 (月)

17:00-

「働くひとたちとのパフォーマンス？ ダンス？ 演劇？ 上演を終えて」

倉田翠 (演出家 / 振付家 / ダンサー)

佐々木大輔 (三菱地所)

武田知也 (bench / 舞台芸術プロデューサー)

中森葉月 (三菱地所)

18:00-

「写真 / パフォーマンス / 異種格闘技とときどき相談？」

倉田翠 (演出家 / 振付家 / ダンサー)

三野新 (写真家 / 舞台作家)

長谷川新 (キュレーター)

森純平 (建築家)

5/24 (火)

18:00-

「エリアエネルギービジョン～まちのビジョニングとアートの交わり～ with 有楽町夜大学」

村上孝憲 (エコツツェリア協会)

梅沢英樹 (アーティスト)

佐藤浩一 (アーティスト)

長谷川隆三 (フロントヤード)

19:00-

「溶ける境界としての『渚』 / 有楽町から考える」

畑中章宏 (民俗学者 / 編集者)

三野新 (写真家 / 舞台作家)

中森葉月 (三菱地所)



主催

「有楽町アートアーバニズムプログラム」実行委員会 (一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会)

助成

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

特別協賛

三菱地所株式会社

協賛

エプソン販売株式会社

エコファニ

Polaroid

荒川技研工業株式会社

一般財団法人東京アートアクセラレーション

協力

株式会社アトム (A-TOM Co., LTD.)

東京工芸大学芸術学部写真学科 川島研究室 (フォトメディア)

一般社団法人 PAIR

ANB Tokyo

会場構成

東京藝術大学大学院青木淳研究室 (月ヶ瀬かれん、仲野耕介、見崎翔栄)、森純平

インストール

Artifact

ARTS
COUNCIL
TOKYO

アンケートにご協力をお願いいたします。

